

# 可哀想な妖夢さん

妖夢さんの黒歴史



成人向け  
ADULT ONLY



# 魂魄妖夢には、決して人に語れぬ過去があった—

それはまだ妖夢が今よりもまだ未熟だった頃—  
巷で悪名高い賊を討伐せんと  
単身討ち入った事があった



当時の彼女は白玉楼の剣術師範を  
拜命したばかりであり、その  
肩書に見合った功名を上げようと  
意気巻いていた

だが妖夢は敗北した  
賊どもの数がありにも多すぎたのだ  
その上、彼らの中には力ある妖も  
多く混じっていた



妖夢は己の未熟さと見の甘さを悔いた  
刀砕かれ地に膝をつき、周囲を  
殺気立つならず者どもに取り囲まれ  
彼女は、自身の死を覚悟した—

(自分の命は、主である幽々子様之物—  
功を焦った末の己の愚行の為に、許し無い  
ままに軽々しく捨てる訳にはいかなない)  
そう考え、彼女はその提案を受け入れる

…分かった、好きにしないさい…  
だが…約束は必ず守ってもらいます…!

そうして、彼女の地獄の日々が始まる—

そんな彼女に、賊の首領が提案する

「その体を差し出して我々全員を  
満足させれば、命だけは見逃して  
やってもいい—選ばせてやる」と









俺らの卑しい種で  
この穴あ孕まして  
やっから覚悟しとけや

へっへ、ガッツリ出して  
やったぜえ



そらっ!  
一発目だあ!

んっひい!?

ジュルル  
ジュルル  
ジュルル



……な、中に  
……出されたっ……

ようしお前ら、  
どんどんマワしちまえ!



おおー、久しぶりの  
女の穴だ、たまらねえなあ!

くそっ、くそお!  
こんな下衆どもに  
オモチャにされる  
なんて……

おい剣士様よお  
剣持って乗り込ん  
で来た時の威勢は  
どうしたよ?  
ハッハハ!

で、でもっ……  
たとえ……体は許してもっ……



心までは…絶対に  
屈しない…っ！  
せ、せめて…！

おう悪い悪い

…ッ！  
う、くっ！

じゃぼっ

んじゃあ嬢ちゃん  
お待ちかねの  
ザーメンタイム行くぜえ

おい、テメエだけ  
楽しんでないでさっさと  
代ってくれよ

じゃぶっ

じゃぶっ

オラツ！  
受け取りなあ！

んっぐう！？

こいつらを喜ばすような  
無様な悲鳴など一つも  
上げてやるものか！





これで全員  
一周したかあ？

ふう、出したぜえ  
あーすつきりしたわ

...や、やっと...終わり？  
これで...私、帰れるの...？



...もう...気が済みましたか...？  
終わったなら約束通り、  
これで帰らせて...！

—覚えてなさい、下衆ども...  
いつか必ず此処へ戻ってきて...  
皆殺しにしてやるんだから...！



にしてもコイツ、全く声  
出さねえな...強情なヤツだぜ

てめえで動きやしねえし、  
穴はそこそこ悪くねえが  
つまらねえ女だな...

...ああ、そんじゃあ.....



んじやあ、  
殺しちまうかあ？

ひっ!?

ま、待って!?!話が違うっ!  
全員満足させたら終わりだって  
約束したじゃないですかあ!

わ、私っ…初めてだったのに…!  
我慢して何十人も相手したのにっ…!

ああ？

仕方ねえだろ？  
嬢ちゃんがマグロすぎて  
犯っててつまねえんだよ

なっ…

大体、一発出したくらいで  
満足する訳や無えだろが!

命惜しいんだろがあ？  
だったら命乞いしながら必死でケツ  
振って俺らを楽しませてくれよなあ

そんで声も我慢しねえでよ、  
可愛い悲鳴の一つでも聞かせて  
くれりやあ俺らも満足するって  
もんだけどよお？

そら、選ばせてやるせえ？  
嬢ちゃんはどうしたいよ？

…や、やるから…  
ちゃんと言われた通りに  
やりますからっ…  
お願い…します…っ  
殺さないでえ…!

ハハ！素直で可愛いじゃねえか!  
じゃあお前ら二周目行くかあ!

うっ…  
ううっ…!

く…くそ…っ  
卑怯者お…っ





やっ、ああっ！  
やあっ、があ…っ！

あっ！あっ！  
あーっ！

ズッ

おらっ！その調子だ！  
必死にケツ振りなあ！

ズボッ

ズボッ

ズボッ

イイ声出せるじゃねえか！  
艶はちと無えがなかなか  
ソソるぜ嬢ちゃんよお！

ズボッ



あーっ

ズボッ

あーっ

ズボッ



あーっ

かはっ



それじゃあ  
お勉強だなあ！  
おらよっ！

んっぶう!!



よお、口空いてんなら  
しやぶってくれよ

はひいっ!?

む、無理…ですっ  
わ、私、そんなの  
した事無っ！

ビクッ





うぶうっ!?

おいガキっ!  
腰止まってんぞ!

オラッ!死にたくねえなら  
ケツ動かすんだよ!

ズグググ



んぶっ

かぽっ

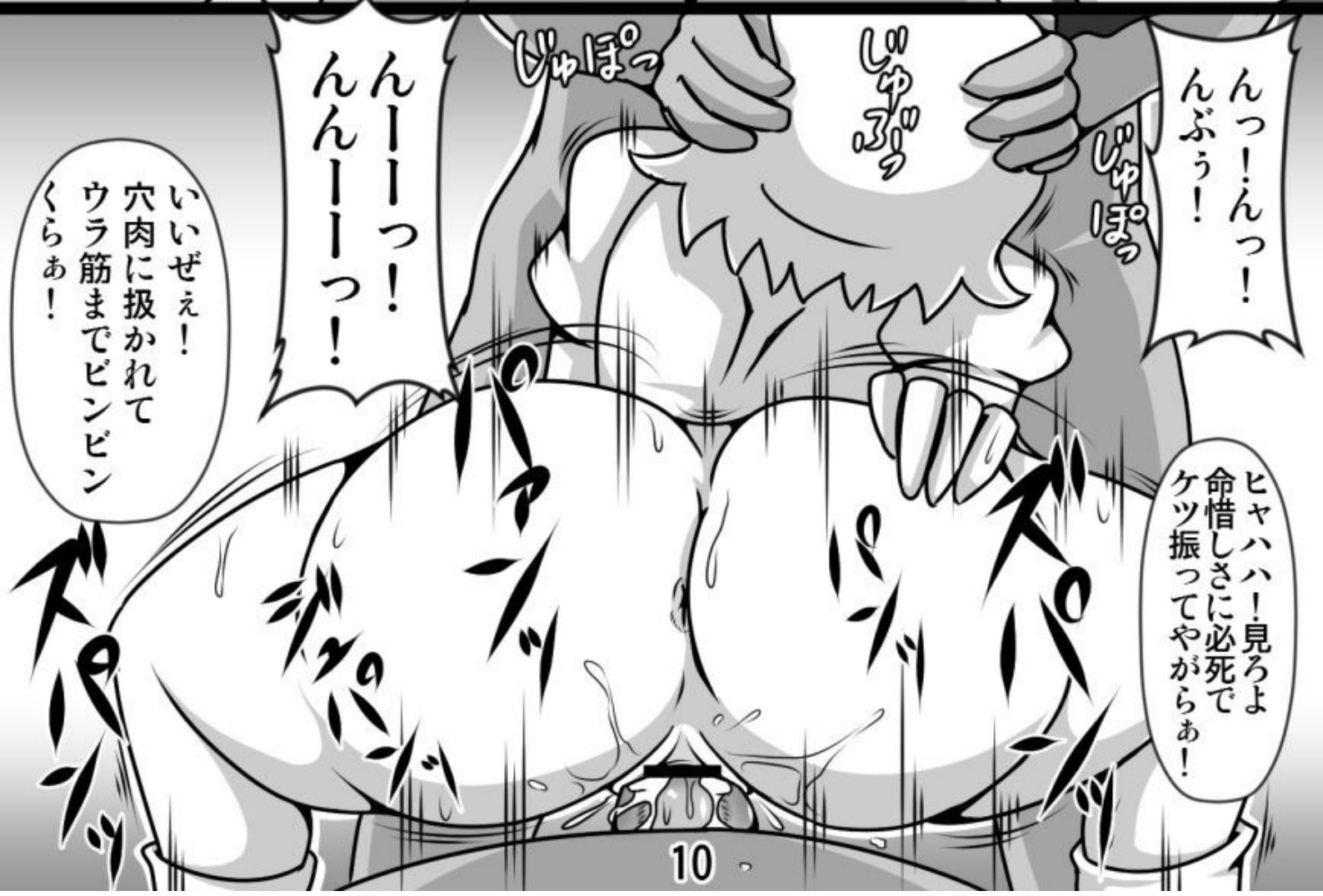
おびっ

ガポッ

しゅぽっ

んちゅっ

へっ!カワイイ顔で  
しゃぶりつきやがって...



んーっ!  
んぶう!

びゅぽっ

しゅぽっ

しゅぽっ

んっ!んっ!  
んぶう!

いいぜえ!  
穴肉に扱かれて  
ウラ筋までピンピン  
くらあ!

ヒヤハハ!見ろよ  
命惜しさに必死で  
ケツ振ってやがらあ!









へへっ…ちっちゃいお口で  
夢中に精液飲みやがって…  
いいねえ、興奮するぜえ



おおう…  
ガキ穴のクセに  
絞り上げやがる…!



だ、ダメ…  
私…もう…っ

この調子でやってりや  
いつかお家に帰れっから  
まあ頑張れよなあ？  
ギャハハッ!

は、はひっ…  
がんばります…からっ…  
お願い…殺さないでえ…

一度弱音を吐いてから…  
心が…とんとん崩れていく…

ご苦労さん！  
お嬢ちゃん、やりやあ  
できるじゃねえか









いだあつ！痛いイ！  
お尻嫌アーツ！

お願いっ、許してえ！  
ま、前えつ！前なら  
いくらでも使つて  
いいからあつ！

んな事言つたつてよお  
前の穴あ埋まつてんだから  
仕方ねえだろがよ

そつ、そんなあつ  
無理よお！し、死んじやう…つ



おい口塞いどけ  
ケツも突つ込んでりやあ  
その内慣れんだろ

んぶつ!?

みつともなくうるせえ  
悲鳴上げやがつてよお…

まあ初めの時よりや犯してる  
つて気分がして悪かねえな

はっ！  
ちげえねえや！

やっぱ女はこうじゃ  
無くつちやなあ！ハツハハ！

こ、壊れる…つ  
私の体…壊される…ツ





もう、抵抗しようなど  
微塵も思わなかった…

ああっ

はっ

命惜しさに彼らに体を売った  
私には、剣士としての誇り  
などとうに消え失せていた



それから変わらず  
男達は私を犯し続けた

私も、望まれる  
ままに何でもした…

んぶっ

シューポッ

シューポッ

シューポッ



ただただ…  
早く終わって欲しかった…

その為に私は全てを受け入れ、  
容赦の無い挿抜にされるがまま  
男たちを少しでも悦ばそうと  
無様な嬌声を上げ続けた…

んぶっ

んぶっ

ドクッ







—七日後、  
私は解放された…

彼らは、そんな私に下履き一枚  
のみを与えて…不要なゴミにする様に  
森の中に無造作に打ち捨てた…

昼夜を問わず  
連日男のモノに貫かれ  
続けた私の穴はすっかり  
緩み切り……  
彼らはそれに飽きたと  
いう事らしい！

へへ…  
どうれ



ちよいと小突きやあすぐに汁が  
溢れてくるしよお、すっかり俺らに  
マンコ騷られちまったなあオイ？

おう、すんなり飲み込む  
ようになりやがってよお

ひうん…っ

んっ…  
カクッ



ああ？お前まだその  
ユルい穴あ使うのかよ？

へへっ…この穴あさんざ  
使って愛着あるからよお？  
名残惜しんでの一発ってなあ

ひあ…

やあ…





そらっ  
嬢ちゃんの刀あ  
返してやらあ!

何時まで経っても  
抜ける気しねえな...  
おっ、そっだ

にしてもユルすぎ  
んだろこの穴あ...

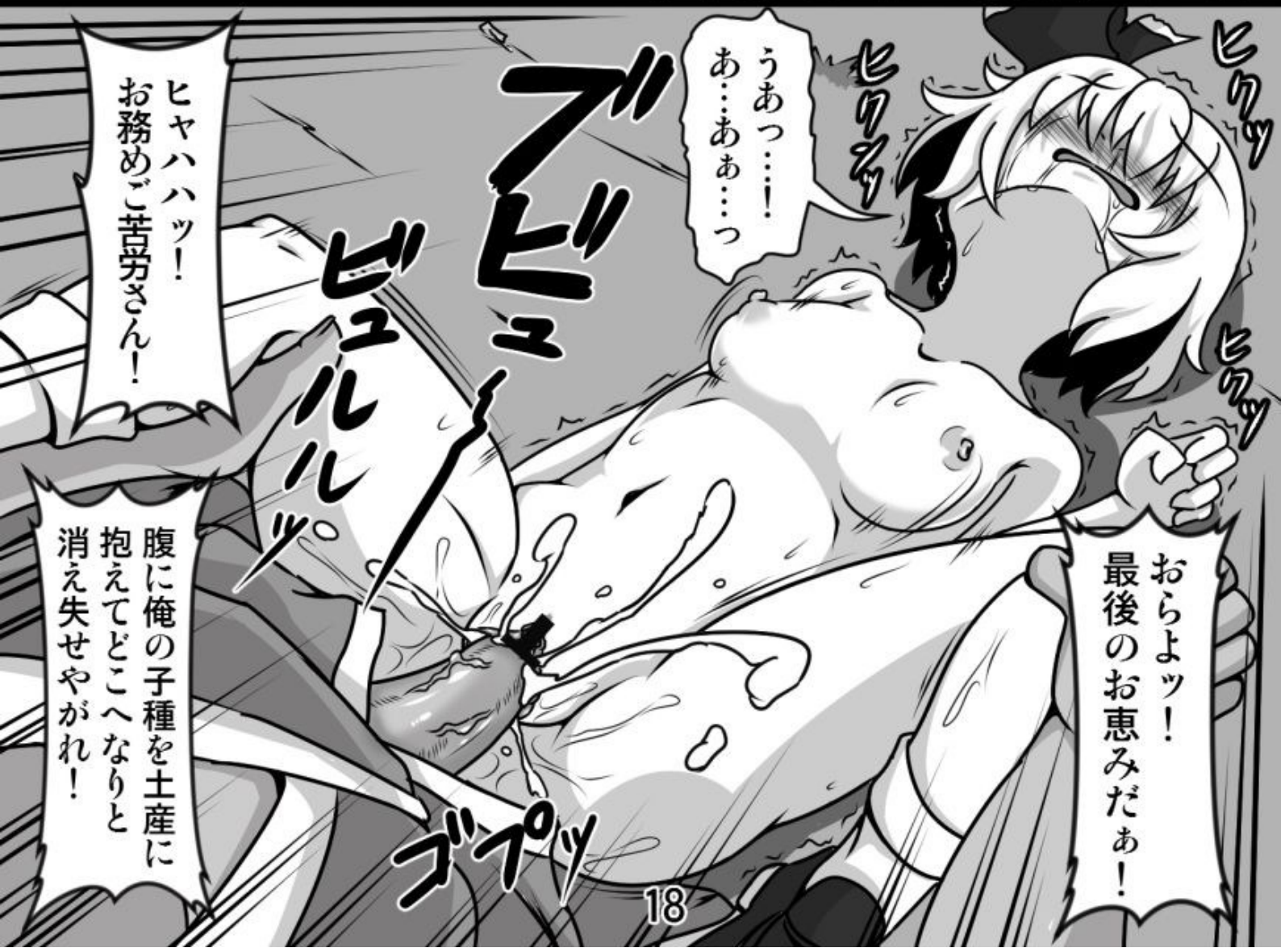


おいガキい!  
ここまで来て  
死体で帰ってえ  
のかオラッ!  
ちったあこの  
ユル穴締めろっ  
てんだよ!

ひっ...や、  
やるから...

こ、殺さ...  
ないでえ...っ

おっ、ちつとマシンに  
なつたじゃねえか!  
オラッ!オラッ!  
いくぞ!いくぞっ!



うあっ...!  
あ...ああ...っ

おらよッ!  
最後のお恵みだあ!

ヒヤハハッ!  
お務めご苦労さん!

腹に俺の子種を土産に  
抱えてどこへなりと  
消え失せやがれ!



おーおー  
可哀想に

見ろよコレ、チンポ啜え  
過ぎてマン肉がブヨブヨに  
膨れ上がってんじやねえか  
もう戻んねえだろコレ

色もクソみてえだしよ  
まるで年増の淫売みてえな  
グロマンになっちまったなあ

ガキみてえな  
見た目のクセに  
これから先  
このグロマンで  
生きて行くなんざ  
可哀想になあ

や、やめて…  
言わないでえ…

うっ…  
ひぐっ…

まあ命惜しさに俺らに  
マンコ差し出したんだ  
今生きてんだから嬢  
ちゃんも本望だろうよ

うええ…

じやーな嬢ちゃん！  
二度と来るんじやねえぞ！

悔しかった…  
自分の身ひとつすら守れ  
なかつた己の弱さに…

…ひぐ

てめえのユルいグロマンにやあ  
もう飽きちまったからよお！  
ギヤハハハハッ！

そして…取り返しのつかない  
ところまで体を汚された事に…  
ただただ悔しくて…惨めで…  
夜の森でひとり、  
子どものように泣いた――

う…うう

うええ…

完



# あとがき

この度は当本を読んで頂きありがとうございます。拙い内容のエロ漫画ではありますが、もし少しでも楽しんで頂けたら幸いです。

スケジュールが崩れ続ける中泣きながら描き続けてなんとかエア紅楼夢に合わせての発行に至れまして、本当にほっといたしました。

自分の出来る範囲で目一杯、大好きな妖夢さんをいたぶり尽くしたつもりではありますが、叶うならばより精進を重ねまして、愛しい幻想郷の少女達をこれまで以上の可哀想な目に合わせてあげられたらいいなあ…と思っております。

次回お会いできるイベントがいつになるかは分かりませんが、より研鑽を重ねましてよりよい本を用意し、また元気にお会いできますように。かしこ。

## 緑肉

もうおヨメに行けない…

うええ〜ん

原作：上海アリス幻樂團さま  
発行：2012年10月07日（エア紅楼夢にて）  
印刷：エアし〇や出版さま  
発行者：しもふりグリーンミート  
描いた人：緑肉（ピクシブid=103709）





# 可哀想な妖夢さん

## ～妖夢さんの黒歴史

東方projectファンブック  
しもふりグリーンミーティング